

総務相自身宛て領収書

政治資金問題「寺田後援会」が受領

自民党の寺田總務相は一日の記者会見で、自身が関係する政治団体「寺田稔竹原後援会」（広島県竹原市）が政治資金の支払いを巡り「寺田稔」宛ての領収書を受け取っていたとの一部報道を認めた。同後援会は、三年前に死亡した故人は、会見で自身宛ての領収書受領について「私の名前を用いたものは確かに存在する」と説明。ただ「政治資金規正法上、全く問題ない」と一日までに語った。

同後援会は、十四年三月付で広島県選舉管理委員会に修正を届け出た。寺田氏は会見で自身宛ての領収書受領について「私の名前を用いたものは確かに存在する」と説明。ただ「政治資金規正法上、全く問題ない」と一日までに語った。代表者名も虚偽の可能性がある。寺田氏の国会事務所は取材に「後援会で代表として決定し、現在まで務めている」として虚偽ではないと回答した。

野党は一日の参院総務委員会で政治資金に関する問題が相次いで判明している。寺田氏宛ての領収書の

寺田氏を追及。寺田氏は「誤った事務処理が行われたことは誠に遺憾で、おわび申し上げたい」と陳謝した。

存在が明らかになった」とで、説明の整合性が問われそうだ。

自身の闘争や責任も重ねて否定。野党の辞任要求には応じない考えを示した。

一方、寺田稔竹原後援会の代表者として報告書に記載されている九十年代男性が、共同通信の取材に「代表ではない。後援会には五年くらい全く出入りしていない」と一日までに語った。代表者名も虚偽の可能性がある。寺田氏の国会事務所は取材に「後援会で代表として決定し、今まで務めている」として虚偽ではないと回答した。